



高校野球のマナーとルールを学ぼう (第95回)



一般財団法人兵庫県高等学校野球連盟

グラウンドでの試合を振り返り、高校野球の大切なマナーとルールを学びましょう。
あなたの「なぜ? どうして?」にわかりやすくお答えします。

2018年まとめ③走塁編 「正しい走塁とは・・・」

ある試合の一コマでした。1死1塁で、打球はセカンドゴロ。打球を捕球し、ダブルプレイを試みようとした1塁走者が2塁手に激しく接触しました。2塁塁審は、守備を妨害した1塁走者と打者走者をアウトにし、3死で攻守交替としました。さて、皆でこのプレイについて、考えてみましょう。

2塁塁審は、打球を捕球し、「4→6→3」のダブルプレイを行う2塁手を1塁走者が、**故意に**プレイを阻止するために妨害を行ったものと判断し、1塁走者と打者走者を共にアウトにしました(こんなプレイはあってはなりません)。

◎適用した規則 ⇒【公認野球規則 6.01(a)(6)】

走者が、明らかにダブルプレイを行わせまいとして**故意に**打球を妨げるか、または打球を処理している野手を妨害したと審判員が判断したとき、審判員は、**その妨害をした走者にアウト**を宣告するとともに、味方のプレーヤーが相手の守備を妨害したものと**打者走者に対してもアウト**を宣告する。

選手の皆さんはもうお分かりいただけていると考えますが、「正しい走塁とは」、日本高等学校野球連盟のマーク「F」の意味の1つである「フェアプレイ(公明正大)」の精神を発揮することで、具体的には、投球/打球/捕球/送球のプレイがあるところは、「守備優先」が大原則です。

- 今回のプレイは、一塁走者は、守備優先の大原則の観点から、①2塁手の裏側を走る②2塁手の手前で止まること等々の走塁の選択があったのではないかと考察されます。たとえこのプレイがベースパス(野球用語=走路)で行われていようが、守備優先の大原則は守らなければいけません!!
- このプレイが最初に行われたのはMLBでの出来事で、走者が打球に触れたら(もちろん故意ではなく)、当該の走者だけが妨害でアウトのルールを悪用し、打球を「素手で捕球した」選手が出現したとされています。そこで、MLBのルール委員会で、現在の規則6.01(a)(6)を制定したとされています。ずる賢い選手がいたものですね。
- さて、県大会などを通じて各チームに配付している「規則・マナーに関する注意事項」の中にも、**正しい走塁に関する事項**が示されていますので、確認しておきましょう。

《重点取組み事項》

一塁に対する守備が行われているとき、本塁一塁間の後半を走るに際して、打者走者は両足をスリーフットレインの中もしくはスリーフットレインのライン上に置かなければならない。

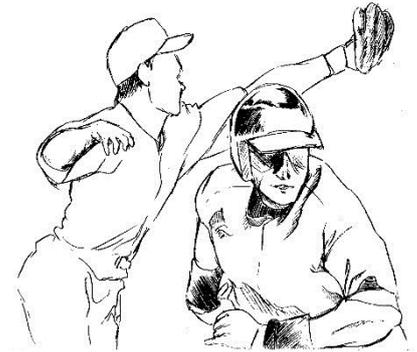
《走者に関する事項》

- ①1塁へ走る際、ファウルラインの「内側は走らない」(塁間後半に切れ込む行為も散見される)。
- ②野手へ向かってのスライディングや送球を妨害する行為は敵に慎むこと。
- ③ゴロ処理しようとする野手に「ブライント」になるようなタイミングを計った走塁はしないこと。
- ④走者が捕手のサインを見る行為、球種やコースを伝える行為をしないこと。



●最後に**関連規則**を簡単にまとめておきますので、今後のプレイに生かしてください。

(1) **故意ではなく、通常の走塁をしたにもかかわらず**、走者が打球を処理しようとした野手と接触したり、打球に触れてしまうケースがあります。この場合も守備妨害が適用され、妨害した走者はアウトになりますが、打者走者は1塁へ進塁させることになります。(5.09(b)(3))



(2) ただし、走者が打球に触れた場合でも、①いったん内野手（投手を含む）に触れたフェアボールに触れた場合や②1人の内野手（投手をの除く）に触れないでその股間または側方を通過したフェアボールに、すぐその後方で触れても、この打球に対して、他のいずれの内野手も守備する機会がない場合は、アウトを宣告してはならない（ボールインプレイ）と定められています。(5.06(c)(6)、6.01(a)(11))

イラスト協力: 兵庫県立姫路工業高等学校デザイン科

上: 大澤 渚 さん (2年)

下: 榊 大和 さん (2年)